

AT 無垢羽目板 施工上の注意

施工の際には以下の点に十分ご注意ください。

■ 施工前の確認事項

- ・柱、間柱、胴縁は乾燥した反りの無いものを使用し、303～455mm(1～1.5尺)間隔で仕上げてください。
- ・水濡れの可能性がある場所や、湿気の多い場所への施工は控えてください。多湿な場所で使用の際は壁下の防湿処理を必ず施してください。
- ・天気の良い、できれば乾燥した日に施工することをおすすめします。やむを得ず湿気の多い日に施工する際は、接着剤が乾きにくい速乾性の接着剤をご使用ください。
- ・現場で塗装をする場合は、施工前に行うことをおすすめします。施工後の塗装は、塗料によっては羽目板が伸縮する可能性があります。ウレタン塗装など被膜系塗装は羽目板の裏面に捨て塗りを必ず施してください。
- ・腰壁の場合は、L型の見切りと巾木を必ずご使用ください。

■ 下地施工

- ・必ず5.5mm厚以上の耐水合板をレンガ張りに下貼りしてください。下貼り合板同士の隙間は2mm程度空けて施工し、合板上に柱、間柱、胴縁の位置を墨付けしてください。
- ・壁下の湿気が多い場合は0.1mm厚以上の防水シートを敷きこんでください。

■ 仮並べ

- ・自然のものであるため木目、色調は様々です。施工する前に仮並べすることをおすすめします。並べ方によってイメージが変わりますので、色や柄のバランスを確認してください。
- ・羽目板を開梱したまま放置すると反りなどの原因になるため、開梱したその日の内に施工するようお願いいたします。

■ 貼り込み

- ・一液型ウレタン樹脂系接着剤と釘を必ず併用してください。
- ・接着剤は無垢羽目板に適したものを適量ご使用ください。厚く塗りすぎても少なすぎても接着不良の原因となりますので接着剤メーカーの説明書に従い、均一にムラなく羽目板一枚ずつに塗布してください。その際、サネ部分には接着剤が入らないよう塗布してください。サネ部分に接着剤が入り込むと割れ、膨張の原因になるため厳禁です。
- ・木工用ボンドは反りや割れを引き起こす可能性がありますので、絶対に使用しないでください。
- ・合板下の胴縁位置に合わせ、フィニッシュネイル(推奨25～30mm)を雌実材に材の中央方向へ向かって斜めに下地を通して胴縁に打ち込んでください。より強固に貼ることができます。
- ・樹種により無垢羽目板の柔らかさが異なるため、フィニッシュネイルを打つエア工具(フィニッシュネイルャー)の釘打ち深さを調整してください。フィニッシュネイルの頭が木表面から出過ぎず、食い込み過ぎず、水平であることが理想です。
- ・雄実を雌実に差し込む際は吸湿による材の伸縮を考慮し、0.3mm(夏季多湿時)～0.5mm(冬季乾燥時)程度の隙間を設ける。羽目板の巾方向の両端は、柱や間柱などに密着させないで必ず5mm程度の隙間を設け、見切りや廻り縁などで隠してください。

■ 養生

- ・表面保護のため施工後は速やかに養生を行ってください。
 - ・厚みとクッション性のある中芯原紙を特殊強化フィルムで両面貼りしたサンドイッチ構造の養生シートをご使用ください。
 - ・養生テープを直接羽目板に貼ることはできません。塗装の剥がれや変色の原因となります。
 - ・シートで覆わなかった箇所があると汚れの原因になるほか、隙間からあたる日差しでその部分だけが日焼けし変色してまいりますのでご注意ください。
- ※ブルーシートなど通気性のないものは湿気がこもり羽目板の反り、変色の原因となりますので絶対使用しないでください。養生シートは1ヶ月以内を目安にはがしてください。天気の悪い時期や環境によっては湿気がこもりやすく、反りなどの可能性があるため早めにはがすことをおすすめします。

■ お引渡し前のクリーニング

- ・基本乾拭きをお願いします。特に無塗装、OIL塗装は水拭きをすると湿気による反り、割れ、毛羽立ちなどの原因となるため、汚れが目立つ場所は固く絞った雑巾で速やかに拭き取り、化学雑巾は絶対に使用せず、乾いた柔らかい布で乾拭きしてください。